

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 中村 英代

研究課題		Well-being の社会学
研究目的 および 研究概要	研究目的	申請者はこれまで、依存症を対象とした調査研究を行い回復過程を考察してきた。その結果、依存症からの回復は、人々にとっての幸福や人々が暮らしやすい社会の設計に通じていることが明らかになった。そこで本研究では、回復を含む大きな枠組みとして“ Well-being （ウェルビーイング）”を設定し、より包括的な視点からこれまでの研究を深化・展開させた。今年度は、特に愛着理論を社会学の立場から精査して虐待問題についての理解を深めた。同時に、資本主義社会についての理論研究も行った。
	研究の 結果	<p>本年度は、かつて執筆した摂食障害からの回復の考察をまとめなおし、「過渡的なプロジェクトとしての〈回復〉論—『摂食障害の語り』より」として、『岩波講座 社会学 第8巻 医療・ケア・障害』（2025年3月刊行、岩波書店）に再録した（成果①）。</p> <p>また、資本主義社会に関する理論研究の成果をまとめ、「資本主義社会を理解する—自分の「社会的位置」を知る」として、学部生向けの社会学のテキスト（『いま、ともに考える社会学』2025年6月刊行予定、有斐閣）の1章を執筆した（成果②）。</p> <p>その他、アウトリーチ活動として2件の講演を行い、WEB エッセイを1件執筆し、一般人を対象に研究成果をわかりやすく伝えることに努めた（「ネガティブな気持ちとの向き合い方を学ぶ」まちだ市民大学 HATS『人間関係学講座』[2024年11月]、「自己受容」とは何か：自己受容の方法を理解する）松沢小学校・道徳授業地区公開講座[2025年1月]など）。</p>
	研究の 考察・ 反省	<p>本年度は愛着理論に着目しつつ、虐待問題と被虐待者の生きづらさについて考察を進めた。これによって、これまで行ってきた摂食障害や薬物依存の研究を深めることができた。また、資本主義社会についての文献研究を継続し、その一端をまとめることができた。</p> <p>今後も、心の理論（精神医学）と社会の理論（経済学）の双方を踏まえつつ、Well-being の社会学を展開していきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究成果物 2件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村英代，2025年3月「過渡的なプロジェクトとしての回復論」，北田暁大ほか編『岩波講座 社会学 第8巻 医療・ケア・障害』岩波書店：79-96。（成果①） ・中村英代，2025年6月刊行予定「資本主義社会を理解する—自分の『社会的位置』を知る」，山田真茂留・有田伸・中村英代編『いま、ともに考える社会学』有斐閣（成果②）。 	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【アウトリーチ活動 3件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web エッセイ 中村英代，2024年10月「過去を想う人、現在に没頭する人、未来を見つめる人…3つのタイプの時間感覚」講談社現代新書 WEB. ・講演 中村英代，2024年11月「ネガティブな気持ちとの向き合い方を学ぶ」まちだ市民大学 HATS『人間関係学講座』. ・講演 中村英代，2025年1月『自己受容』とは何か—自己受容の方法を理解する」松沢小学校・道徳授業地区公開講座. 	